

全員協議会 会議録（要点筆記）

平成31年2月21日（木）

午前 9時30分 開会

午前10時00分 閉会

場所： 全員協議会室

〔報告案件〕

1 第2次半田市男女共同参画推進計画の期間延長及び次期計画の策定について

竹部益世企画部長：資料に基づき説明

加藤美幸議員：男女共同参画推進計画なのですが、毎年毎年各課に進捗状況のチェックみたいなことがされていて、審議会に報告されていると思うのですが、延びた期間中もそれは行っていくということでしょうか。

竹部益世企画部長：同様に行ってまいります。

2 パブリックコメント手続の実施について

竹部益世企画部長：資料に基づき説明

榊原康仁建設部長：資料に基づき説明

質疑なし

3 地区路線バス「ごんくる」と知多バスの利用状況について

加藤幸弘防災監：資料に基づき説明

石川英之議員：今最後にどの地域でもという「どの」がよく理解できなかったのです。この空白のところのことを言っているのか、今地区路線Aが走っているところも、それはそれで地区路線Bに変更してでもいいということを行っているのかということがまず1点目、2点目として地区路線Bが地域地域でそこらじゅうで発足をして、話がまとまったときにどこまで半田市として予算を費やせるのかということが2点目です。

加藤幸弘防災監：まずどの区域かということですが、例えば一つの自治区だけではなく、またいだ自治区でも考えていただければ結構ですということ、それから今走っている路線のバス停を、ポイントに対してそこへ結ぶような路線を考えていただいてもいいですという意味で広い範囲で考えていただけたらありがたいと思っています。また、いろんなところからいっぺんに出てきたからということもありますけど、なかなかバスの会として立ち上げていただくのにはいろんなことで話し合いをする場を作っていただくことが大変だと思いますので、その辺は私どもが入って順番につめていきたいと思っています。いっぺんに合意形成されることがたくさん出てくるとは考えられませんので、今もうすでに問い合わせのある区域がありますけども、そういうところをひとつずつお話していきたいと思っています。

石川英之議員：まず1点目ですが、今走っている地区路線Aに結束ではなくて僕が聞いたかったのは、具体的に言います、北部の亀崎有脇線ですと地区路線Aとして1周90分で走っているのです、これを亀崎地区だけを例えば地区

路線Aとして残して、有脇の方を地区路線Bに変更して小さいバスでもっときめ細かく、人のいない田んぼ道だけを走らせているのではなくて、ちゃんと人のいる道を走らせるようなかたちに変更することも可能ですかということが聞きたいことが1点、2点目に関しては金額の話が全くなされてなかったのですが、来年度半田市としていくらの予算をここに見込んでいるのか、どうも話に聞くと補正予算で対応ということをちらっと聞きましたが、どの程度、補正予算にしたって限りはあると思うのですが、何台分ぐらいを予定しているのかお聞かせください。

加藤幸弘防災監：今石川議員からお話しいただいた亀有バスの件については、そのようなかたちも十分考えられると思っています。そのなかで今少しお話をしましたけれど、バスを考える会を亀崎については立ち上げていただくことに話が進んでいますので、有脇の方も少し話をさせていただくなかでもう少し細かい、小さいバスで回っていくということも考えていけたらいいと思っています。お話は今順番にさせていただいております。それから予算については、まず、委託、皆さんに話をさせていただくための予算は今回確保しておりますけれども、何度も申し上げますけれども、まとまるということには結構時間もかかりますし、この導入の流れに付けてありますけど、この流れのように進んでいってもなかなかすぐにたくさんの会が立ち上がるということは難しいと思っておりますので、ひとつずつ皆さんの利便性を考えながら、地域と話をしながら考えていきたいと考えています。補正についてはやれるところから順番に出していきたいと考えています。

新美保博議員：今の金額のことで先に聞かせてください。地区路線Bを立ち上げようとしたときにどこまでの助成をしてくれるのか、公として、前に聞いていた話は地区で例えば車も用意してくれ、運行もすべて地区でやってそれでお金をペイしていく話のニュアンスで聞いていたのだけど、公がどこまで応援してくれるのか。例えば車は公が用意しますと、運行路線は地域に任せるということであると、そういう仕訳はどこでされているのかお聞きしたい。

加藤幸弘防災監：基本的に立ち上げのための例えばバスのルートだとか、バス停をどこに立てるとかそういうところを、デマンドのことも考えられますけれども、構想を考えていただく、後の運行については例えばバス会社に委託するとか、タクシー会社に委託するとかそこは半田市、公の方でやらせていただきます。ですので、バス、車を買えとか運転手は自分たちでとかいうつもりはございません。

新美保博議員：わかりました。計画は地域のみんなで考えてくれと、地域の要望がある、例えば車の大きさだろうとか、ルートは決まったら公がちゃんと面倒見てくれるということでもいいのですね。そうすると、この薄グリーンのエリアをなぜこれを決めてしまうわけか、ちがうでしょう。今の地区路線のAというものが上にあって、Bが下にあるか上にあるか別として、この別路線で全体を網羅するバス路線ではないのか。この図でみると、先ほど亀有の話も出たから、例えば乙川で言うと僕は美原町に住んでいるから、美原のAを除いたところをどうすればいいのか。ここはグリーンではないのか。ここの地区に住んでいる人たちはこの自分たちのところを考えなければいけないのではないのか。そうす

ると赤の地図のAの路線があるところがあるからそこは通ってはいけないのではなくて、そこも通りながらだぶるかもしれないけども、同じ時間にそこを通るわけではないわけだから、この薄グリーンというのは半田市全域で考えることではないのか。そこをどう区が、6区が集まってやるのか10区が集まってやるのか、単区でやるのかは別問題ですけど、この計画の考え方が、この地区路線Bというもののエリアをこういうふうに決めてしまうことの方がおかしなような気がします。それと例えば亀有の話で言うと亀有は一本木の道路から亀崎高根町のところの真ん中に住んでいる人たちはどこへ出ていけばいいかという歩いて出ていかなければいけないはず。そうではなくてそこに小さな小回りの利くバスを走らせることだって要するに地区の人は考えている。当然薄グリーンが塗られるエリアであると思う。この緑色を付けた意味は何か。ここだけで考えるということなのか。

加藤幸弘防災監：最初の説明でもさせていただきましたがこのエリアに関わらずということで、まず今のこの路線を作ったときはこの路線で拾える範囲は確保しましたと、それ以外については考えていきたいと思いますというふうに作らせていただきました。ただ今実証運行している中でいろんな問題が出てきますので、作った計画から少しずつ変わってくると思っています。それは公共交通会議のなかでも話をしていきますので、私が最初に説明したようにこのエリアに関わらず全域で考えていただければ結構ですということを最初に説明させたいわけですが、そういうかたちです。ですので今新美議員から言われたようにいろんなところでいろんな考え方がでてきますので、そういう要望については一つずつ私たちも、地域によっていろんな状況が違いますので一概に決めることはできないかと思いますが、話を聞いて順番に詰めていきたいと思っています。エリアとしては今おっしゃっていただいたとおり全域で考えていけばいいと思っています。

久世孝宏議員：非常に複雑な計算になるかと思うのですが、この4か月の収支ですね、当然黒字になっているわけではないし、そこは僕らもわかってやっているのですが、実際に市が3路線こういうかたちに変えたことによってというか、まず全体でいくら補助、負担をしているのかと、願わくは今までとこういうふうに変えたことによって負担がいくらふえているのかというようなことが知りたい、僕は把握しなければいけないと思うのですがそのあたりの数字というのは出ているのでしょうか。まだ今計算中であるならどこかで今後出してほしいと思うのですがいかがでしょうか。

加藤幸弘防災監：まだ実証運行を始めて4か月ですので、もう少し当初立ててあった今年度の予算のなかでどこまでやれるかということはまだ確定できていませんので、それは少し今お話しすることはできませんけど、当初予定していたよりも一部路線では結構減っています。それは間違いありませんのでその辺は少し考えていかなければいけないと、それで今からいろんな取り組みをして、乗車人数を増やしていこうと思っていたのですが、それが100%いけるかどうかわかりませんがもう少し決算を出すまでにはきちっとしたいと思っています。

久世孝宏議員：僕の今の質問の意図は、市がどれだけ負担をしているのかという

ことをきちんと把握をしたいので、それを出してくれということで、僕は完全に福祉施策だと思っているものですから、当然そこにはお金は入れなければいけない、ではその額が本当にいくらが今後適当になってくるのかというところを把握していくためにもそういった情報も出してくださいというお願いなので今が出ていないのであればしかるべきときにはきちんとまとめてほしいというふうに思っています。

加藤幸弘防災監：年度で締めさせていただいて、年度末までのかたちはとらせていただいて、データは資料として出させていただきます。

加藤美幸議員：すでにいろんな、運行が始まってからいろんなご意見があったと思うのですが例えば時刻表が見にくいとかバス停の位置だったりとか、実際に乗るときにご意見があったかと思うのですが、現段階で改善されているのか、どこかで一斉に改正するのかとか、そのところはどうなのでしょう。

加藤幸弘防災監：公共交通会議のなかで同じようなお話があり、同じようにお答えしておりますけども、やれることはやっています。バス停についても大きく動かすということはいろいろな申請がいるのですが少し動かすことで可能なことはもうすでに終わっていますし、バス停についている時刻表が見にくいというお話についても順番に今直していますので、そのなかではたまたま昨日でもお客さんがだいぶ安くなったねと言っていた例もありますので、順番にやれることから、お金がかかることはお金をかけて、申請が必要なことは申請をしてやるという順番で直しています。

4 半田市環境基本計画の計画期間延長について

滝本均市民経済部長：資料に基づき説明

久世孝宏議員：なぜ最初から12年にしておかなかったのかというふうに率直に思うのですが、どういう考え方が変わったのかというところだけ確認をしておきたいです。何でも総合計画が最上位計画なので、そこができてそれに沿っていろんな計画ができていくのが筋だと思うなかで、スタートがちょっとバラバラなのはそのときそのときの時代背景であったり、まああるのかとは思いますが、であるならば最初からこのお尻を総合計画にそろえておいて、その次、頭をそろえてというような方法というのはとれなかったのかと。

滝本均市民経済部長：総合計画が最上位計画であるのは変わらないことなのですが、総合計画の評価といいますか、目標達成、例えばPDCAサイクルの中で目標が達成できているのかということを総合計画でも検証しますが、その下位の計画においても同じように検証しています。そうすると目標年次が違ったりしていると、総合計画の最終目標年次が32年だとすると、その目標年次と下位の計画の目標年次がそれを過ぎたところに目標年次が設定してあって、途中の経過の指標は整合しているかどうか非常にわかりづらくなります。

榊原純夫市長：私も21年度当時のことまでは明確ではありませんが、おそらく国の方から各自治体においては今環境のことが国の課題になっているので、きちんと基本計画を作って対応していけという指針が出て、そのときは総合計画に合わせることは考えていなくて、いろいろな計画が10年計画で作られてま

したのでこの年度になったということであるというふうに思いますが、一度その辺は確認をさせて、またお答えさせていただきます。

久世孝宏議員：聞きたかったのは、やはりこれからそういうことを気にして、計画期間というのはいろいろ考えてほしいと思うのと、他にないかと、今たまたま今日2つ延長というような話になったのですが、他にずれているものがないかどうかというのも確認してもらって、その辺全体で統一してやってもらえたらと思います。よろしくお願いします。

榊原純夫市長：ご指摘のとおりだと思っていまして、いろんな計画の終期を見て幹部会などに報告されるときはきちんと合わせるようにということは指示していますし、一度他にも計画がありますので、やはり最上位計画である基本計画との整合性が大事でございますので、そういった観点で改めてチェックをさせていただきます。

午前10時00分 閉会